

【鴨部】 煙寺

風泥舎作

(23)けたの池と白ヘビ

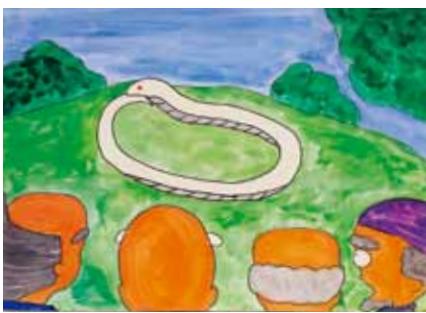
煙寺に伝わる民話。

昔、水不足で苦しんでいた煙寺の地域に、水をもたらした大きな白蛇のお話。

胴回りが50cmもある大きな白蛇で、しかも目が真っ赤。神通力をもつっていた。

煙寺は玉川町の他の地域よりも水が少なく、昔から苦労していたが、雨が降るので、村人は神の化身だとありがたがっていた。

この年も雨が少なく、けたのお地蔵さんに雨乞いのお祈りをする



玉川の民話からとった手造りの紙芝居が作られている。

ことになった。

その時に現れたこの白蛇に山の頂上まで導かれた。

蛇が大きな円を作ったところを掘ると、水が湧き出てきたと伝えられている。

現在、けたの池のおおよその場所はわかるが、草深く行くのは難しい。今でも煙寺では、お盆の月の27日に盆踊りが行われている。

このお話は紙芝居になっている。



(24)郷の元板碑



大変貴重な中世石造物。

板碑とは、板石塔婆(卒塔婆)とも

言われる供養塔の一種。板状に加工した石材の正面に種子(梵字)・図像・文字などを刻んでいる。

関東地方では、加工しやすい青石(結晶片岩)の中世板碑を多く見かけるが、郷の元板碑は当地方特有の花崗岩を使用している。

愛媛県内では、中世に造立された板碑の確認事例が少なく、今治地方では郷の元板碑だけが知られていく。形態から判断すると、南北朝時代から室町時代にかけての造立か。

平成13年ころの調査で発見され

たが、かつては道端で粗末に祀られ、災いを心配する声もあった。道路拡幅工事にともない、祀り直した。

桑原孝氏が主宰する陶芸サークル。全国から土を取り寄せ、様々な焼き物を作る。

教室は月・火・木の夜間。希望によつて体験もできる。

〒794-0116
愛媛県今治市玉川町煙寺
電話090-4335-6132(桑原)

(25)風泥舎

